



## 海老原靖芳

(えびはら やすよし)

放送作家。1953年、佐世保生まれ。青山学院大学経済学部卒。  
大学卒業後、コピーライターとして広告制作に従事しながらも、  
いまや伝説のテレビ番組となっている「巨泉・前武のゲバゲバ90分」の特番に  
持ち込んだギャグとコントの原稿が日本テレビの番組スタッフ（演出の斎藤太郎・  
コント作家の河野洋）に認められ、放送作家となる。  
以来、笑いを作る放送作家としてザ・ドリフターズ、コント赤信号、とんねるず、  
ビートたけしとたけし軍団、三宅裕司とSET等のコント台本を書き、  
「コメディー・お江戸でござる」、「ドリフ大爆笑」、「ドリフと女優の爆笑劇場」、  
「風雲たけし城」、「志村けんのだいじょうぶだあ」、「吉本新喜劇」など、数多くの  
人気番組を手がける。

佐世保市が市制百周年を迎えた2002年、市の依頼により故郷を舞台とした  
オリジナル脚本を執筆し、百周年にちなんで市民100人と吉本新喜劇メンバーを  
共演させるという吉本にとっても前代未聞の舞台、佐世保版吉本新喜劇「失われた  
時を求めて」を企画演出する。

現在「佐世保かっちえて落語会」と「信州ずくだせ落語会」を主催し、子供たちに  
落語（それも地元の名称や方言を織り込んだ創作落語）を通して自分を表現する  
ことの喜び、日本語の豊かさや奥深さ、方言の面白さなどを教えることに取り組ん  
でおり、故郷である佐世保と長野県の軽井沢で、それぞれの子供たちへの台本提供  
と表現指導をし、そうした子供たちに本格的な高座で、毎回トップクラスの落語家  
たちの前座を務めさせている。

### 著書

- ・愛犬とともに過ごした日々を綴ったエッセイ『軽井沢のボーイ』
- ・江戸情緒新作落語集付き『佐世保に始まった奇蹟の落語会』
- ・自伝的エッセイ集『還暦すぎて、陽はまた昇る』

所属：日本放送作家協会  
日本脚本家連盟